

「今の時を生かして用いなさい」

エペソ人への手紙5章15～21節

女子聖学院中学校高等学校 チャプレン 高橋恵一郎

今の時を生かして用いなさい、と今日のところには書かれていました。

今の時、それは時間的流れのなかで自然に訪れた「今」という時のことではありません。

「今の時」、それは神様によって与えられた新しい時のことです。

今という時が、与えられている。

当たり前ではない「今」という素晴らしいときが神様から与えられている。

そのことを手紙の著者のパウロは気づかせようとしています。

神様の力によって新しく生き直す。

お読みした箇所はそのような大切な機会が、今、与えられていることを教えています。

誰にでも、期待をもって新しい時を迎えた経験があることと思います。

小学校に入学したとき、女子聖学院に入ったとき、新しい制服や鞆や教科書を購入したとき、初めて英語を勉強始めたとき、新しい教科書が配れたとき、クラブ活動に入部届を出したときがあったのではないのでしょうか。

思い出しませんか。

しかし、いつの間にか、その思いが忘れ去られてしまいます。

そして、あきらめの言葉が出てくることがあります。

「どうせこれしかできない」「これ以上無理」、と。

あるいは否定的な思いが心を占めることがあります。

「あの人みたいにはできない」「ほどほどにやっておけばいいや」、と。

場合によっては、気持ちがいじけてしまい、自分だけでなくクラス全体を後ろ向きな思いに巻き込んで行くことすらあるかもしれません。

否定的な思いや、無気力感、逃げたいという思い。

そうしたやる気をそぐ思いは、放っておけばいつの間にか私たちの心に忍び込み、そして育てて行きます。

話は変わります。

先日、健康診断の結果が職員室に配られました。

それを見ながら、3年ほどの前に行った体重調整のことを思い出しました。

それほど太っては見えなかったかも知れません。

しかし、私の体重は確実に毎年少しずつ増加していたようです。
あるとき、体重計に乗って、私は驚きました。
女子聖学院の教師となり、初めて健康診断を受けた時の体重よりも、何と10キロも増えていたのです。
た。
思えば、それまで着ていたアンダーウエアが少しきつめになっていました。
ワイシャツも同じです。
その春には、こんなことがありました。
荷物を持ち上げようとして、力を入れた瞬間のことです。
ズボンのお尻のところバリッと音を立てて、なんと二つに裂けてしまったのです。
確かに長く使ってきたズボンでした。
だから生地が弱り、縫い目がほつれていたのだろう、とっていました。
しかし、そうではありませんでした。
広がった腰回りがズボンを引き裂いたのです。
体重10キロ増！
私はこの現実と向き合うことにしました。
妻からアドバイスをもらい、調整を始めました。
常に口に入れるもののカロリーを考える、ことにしました。
肉類を避けるようにしました。
間食を止め、夕食は温野菜だけで我慢することにしました。
さらに、妻からは食事のコントロールだけではダメだと指摘されました。
燃費の良い体にならなければならない、と。
当時、流行ったピルーズブートキャンプを、毎日15分行うようにしました。
15分というのは、それ以上はとてできないからです。
それでも頑張ろうと思いました。
お陰様で、ようやく半年ほどかけ、徐々にもとの体重に戻すことができました。
今は、ズボンもシャツも普通に着ることができるようになっています。
気づかないうちに、気づかないところに、少しずつ私の体に付着したものがあつたの
でした。
放置すれば、付着物はまだまだ増えて行ったことだと思つと恐ろしい気がします。

話を戻したいと思います。
体への付着物のお話をいたしました。
付着物は、体だけではありません。
私たちの心と魂にも余計な付着物が付くことがあります。
その存在を弱らせ、不安定にする付着物です。
心を後ろ向きに引っ張り、やる気を萎えさせ、物事を否定的に捉えさせる付着物です。
自分の心を顧みて下さい。

どうですか。

初めの頃の熱い気持ちが、いよいよ大きくなって、炎のように燃えているでしょうか。それとも、そんな気持ちがあったことすら、忘れてしまっているように萎えているでしょうか。

大切なことは、まず気が付くということだと思います。

そして、その心の付着物と向き合うということだと思います。

そして、その付着物をそぎ落とそうと決意することだと思います。

今の時を生かして用いなさい、と書かれていました。

それぞれに与えられた今があると思うのです。

今、到達しているところがあるのだと思うのです。

人と比較する必要はありません。

神様は語りかけておられます。

今、自分がいるところ、そこから初めてごらん、と。

そこが、君のスタートラインだよ、と。

遅れているように思ったり、すでにコースから外れているように感じている人もいるかも知れません。

そう思う必要はない、ということです。

今いるところが、君の人生のスタートラインだと、聖書は教えているのです。

そこから始めれば良いじゃないか。

今日が、これからの君の人生の最初の日だ、と。

もしかしたら、心の内側から違う声が聞こえてくることもあるかもしれません。

「もう、だめだ」「もう、おそい」「めんどうくさい」

それは、神様の声ではありません。

君たちの人生を低いところに引きずり降ろそうとする悪魔の声です。

聞かなければならないのは、君たちに力を与えて下さる神様の声です。

神様は聖書を通して、聖霊を通して言われるのです。

大丈夫、さあ、君の人生のスタートラインに立ちなさい、と。

新学期が始まりました。

それは新しい人生の始まりでもあります。

私たち教師も君たちを応援しています。

二度と戻ってくる事のない時を皆さんは過ごしています。

与えられたこの時を大切に過ごして参りましょう。